



トンボ

CSRレポート2011

2010.7.1~2011.6.30



人と自然を大切にした 価値ある製品づくりを

トンボ経営理念

私たちの使命

トンボブランドのもと、
最良のユニフォームメーカーをめざし、
社会に役立つ確かな価値を創造し、提供します

トンボの行動指針

- ・愛と汗の精神で、人を大切にし、全員経営をめざします
- ・信用を重んじ、約束を守り、誠実に行動します
- ・縁を大切にし、相手の立場を尊重します
- ・社会に役立つ、心の通った開発をめざします
- ・自然と環境に配慮した活動を行います



編集にあたって

「トンボCSRレポート2011」は、トンボのCSRに関する1年間の取り組みをご紹介します。

初めてレポートを発刊して5年目を迎え、一匹だったトンボも毎年一匹ずつ増えて、5匹が雄飛するようになりました。

CSRという大きなテーマの中、この間私達にできる課題から取り組み、少しずつですが前進させてまいりました。

まだまだ課題はたくさんありますが、今後も継続的に活動を行ってまいります。ぜひ皆様からのご意見やご感想をお聞かせくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

今回から各データの数値を事業年度に合わせるために、一部行政へ報告する期間のデータを除き、基本は7月から6月の1年間の数値となっています。

2010年度の報告対象期間は2010年7月～2011年6月です。

INDEX

会社概要	3
トップメッセージ	5
信頼される企業体制	7
お客様に安心と満足をお届けするために	9
ハイライト	13
環境活動報告	
環境方針と環境負荷低減活動	15
社会とのかかわり トンボの縁で広がる輪	17
トンボ絵画コンクール	18
環境活動とコミュニケーション	19
各事業所の取り組み	20
社会的活動報告	
ビクトリースポーツ教室・「キラク川柳」	21
制服着こなしセミナー	22
工場見学・インターンシップによる地域貢献	23
財団法人八正会	24
社会貢献活動	25
健全な企業風土づくり	26
ブランディング活動報告	29
沿革	30

「ヒメアカネ(♂)」
小型の可憐な赤トンボ

岡山県真庭市蒜山上長田戸谷にて撮影
写真提供
社団法人 トンボと自然を考える会
常務理事 杉村光俊氏

会社概要

社名	株式会社 トンボ
URL	http://www.tombow.gr.jp
会社設立	大正13年5月10日(創業:明治9年)
資本金	1億8千万円
代表者	取締役社長 落司 量則(おとし かずのり)
従業員数	718人(2011年6月末現在)
本店所在地 玉野本社工場	〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212番地 TEL.(0863) 51-1515 FAX.(0863) 51-2526
事業所所在地 本社事務所	〒700-0985 岡山県岡山市北区厚生町二丁目2番9号 TEL.(086) 232-0311 FAX.(086) 225-4094
東京支店	〒136-0071 東京都江東区亀戸二丁目34番4号 TEL.(03) 5626-2251 FAX.(03) 5626-2265
横浜プランチ	〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目7番地1号 日総第14ビル 2F TEL.(045) 473-8705 FAX.(045) 473-8719
大阪支店	〒540-0025 大阪府大阪市中央区徳井町二丁目1番1号 TEL.(06) 6942-5551 FAX.(06) 6942-5549
岡山支店	〒700-0977 岡山県岡山市北区問屋町22番地101 TEL.(086) 241-7830 FAX.(086) 241-7856
広島営業所	〒733-0842 広島県広島市西区井口五丁目3-4 TEL.(082) 270-5121 FAX.(082) 270-5123
松江営業所	〒690-0047 島根県松江市嫁島町13番5号 TEL.(0852) 23-3211 FAX.(0852) 27-5387
愛媛出張所	〒790-0014 愛媛県松山市柳井町一丁目15番地9 TEL.(089) 921-6888 FAX.(089) 921-6855
福岡支店	〒811-2207 福岡県糟屋郡志免町南里六丁目8番1号 TEL.(092) 937-3730 FAX.(092) 937-3750
ユニフォーム 研究開発センター	〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212番地 TEL.(0863) 51-1517 FAX.(0863) 53-9009
岡山工場	〒700-0034 岡山県岡山市北区高柳東町8番1号 TEL.(086) 252-1131 FAX.(086) 253-4432
美咲工場	〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原954番地 TEL.(0868) 62-0122 FAX.(0868) 62-0797
玉野物流 センター	〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212番地 TEL.(0863) 51-1522 FAX.(0863) 51-1243
紅陽台物流 センター	〒706-0134 岡山県玉野市東高崎25番地8 TEL.(0863) 71-4466 FAX.(0863) 71-4471

■ 事業内容

スクールユニフォーム、スポーツウエア
介護・メディカルウエアなどの企画、製造、販売

■ 関連会社

北海道トンボ株式会社
秋田トンボ株式会社
宮城トンボ株式会社
福島トンボ株式会社
関東トンボ株式会社
茨城トンボ株式会社
株式会社トンボ繊維
長野トンボ株式会社
株式会社トンボメイト
徳島トンボ株式会社
グローイング株式会社
南九州トンボ株式会社
株式会社マイク
株式会社モリ商会
トンボソーイング株式会社
サントンボ服装株式会社
株式会社ハートヒルズ
株式会社トンボシステム
株式会社トンボ保険サービス

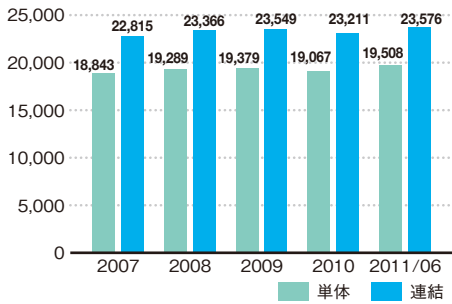
■ トンボグループ



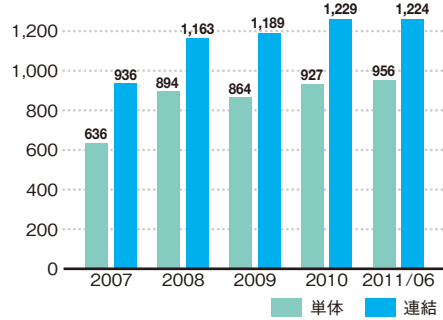
「マユタテアカネ」
顔の黒い斑点を肩に
見立てて名前がついた



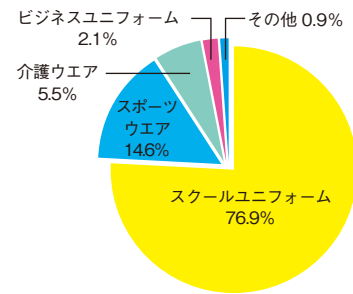
■売上高推移表(単位:百万円)



■経常利益推移表(単位:百万円)



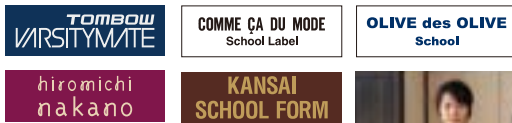
■売上高構成比率(連結)



■主要ブランド

学校オリジナル制服(標準服)

■高校・中学校用



■小・中一貫校用



■幼稚園用



男子詰襟・女子通学服

■男子詰襟学生服



■女子通学服



■小学生服



介護ウェア



メディカルウェア



スポーツウェア





エコごころ

代表取締役社長

高橋 量則

まず、このたびの東日本大震災で亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災地域のすみやかな復興をお祈り申し上げます。

戦後最大とも、千年に一度とも、比類なきとも言われる東日本大震災と、それに続く福島原発事故、さらには全国に波及した電力供給不足が引き起こしつつある経済や生活へのダメージを、今年、我々はリアルタイムで経験しています。

震災直後の、何がどうなっているかもわからないショックが収まるにつれ、具体的な危機や不具合が次々と露見し、さらには、思っても見なかった事態に発展していく様を見るにつれ、完成度が高いと思っていた日本の技術やシステムの足元が脆弱なものであったことを思い知らされました。

そして、その思いで当社を振り返る時、まだまだ手付かずのことや、不完全なシステムが多いことに気づき、気を引き締めています。

震災からまもなく、被災地域の方々の暮らしが映像に出るようになって、子供たちや学校の様子が映し出される機会が増えました。

時期的に卒業式やそれに続く入学式など、話題性があったこともありますが、制服姿が映るたび、あるいは制服まで流されてしまった生徒たちが映るたび、制服姿が教育や子供たちのシンボルと見なされていることに気づき、感無量の思いを持つとともに、その制服のサプライヤーとして、使命感を新たにしました。

このページでは、そのような感慨を踏まえ、新たな価値観の時代に入った当社なりの経営、つまりはエコ経営について思いをお伝えしたいと思います。

エコごころ

阪神・淡路大震災の時も、多くの人が、無常観とまではいかないものの、何が大切で、何がいらぬか価値観の優先順位が変わったと話されていたことを覚えています。

当社も、部分的にはありますが、そのような変化が既に起きていて、それらの基調になっている考え方をエコごころと名付けています。

足し算から引き算へ、エコごころでものづくり

学校別注制服を例にとると、今までは、あれもこれもと多彩な機能やディテールを薦める付加価値型提案が多かったのですが、今は、必要な本質機能は今まで以上に充実するものの、それ以外の要素は極力削ぎとった、云わば潔いデザイン提案が増えているように思います。

私は、それをわかりやすく『引き算型商品』と呼んでいるのですが、その意味は、制服のデザインとは、つまるところ理念や規範、美意識からできあがっているものなので、引き算型商品とは『本質重視で、装飾性や過剰さを排除するストイックな美意識』、あるいは今風に言うとエコごころで絞り込まれた商品であるというものです。

もちろんこれは商品のあり方の一例ですが、経営についても同じことが言え、似たような組織や会議、書類決裁からマーチャライジングのあり方まで、改めて引き算すべきパートと、逆に手厚く足し算する部分を見分け、経営もエコごころで見直すことが重要だと思っています。

『もったいない』『みっともない』のこころ

そのエコごころをひと言で言うのは難しいのですが、日本人の心情にピタッと合まるのは、『もったいない』『みっともない』の判断ではないかと思っています。

飽食の時代と言われる中で、つい最近まで死語になりつつ

「マイコアカネ」
浅く明るい池や田んぼに
棲む、ヒメアカネに似ている



あった『もったいない』『みっともない』は、エコロジー概念の浸透で、その背景にある美意識とともに、今やニューコンセプトとなりつつあるように思います。

別に目新しい概念ではありませんが、あらためて見直してみると、

『もったいない』

『もったいない』とは、もともと、大層で物々しいを意味する『勿体』がない、つまり、そのものの値打ちが十分に発揮されず惜しい、の意味です。

それが転じて『自分ごとき軽い存在にまで、貴重な時間や資源を割いていただき申し訳ない、ありがたい』の意味となり、また神や仏、高貴なものに不都合な振る舞いをして罰が当たる、を指すようになりました。

それが今では『まだ使えるものを捨てるのは惜しい』『貴重なものを使わせてもらう』『ものを粗末にしない、無駄に浪費しない』意味になっているのはご存知の通りです。

資源小国日本で、誰もがわかり、実践していた筈なのに、いつの間にか忘れられていましたが、当時の小泉首相が提唱され、徐々に復活した観があります。

別に大きな声で売り物にするほどのことではない、ごく当たり前の概念ですが、大事なことです。

『みっともない』

一方で『みっともない』とは、見たくもない、見苦しいからきていますが、もともとは江戸時代、侍の生き方に端を発しています。

つまり侍とは、不意の戦^{いくさ}に備えて、機敏^{いくさ}に対応できるよう、普段から過剰を避け、生活と身の回りを軽くし、また冷静な判断ができるよう、余計なわずらいごとにかかわらないことを心がける身分でした。また戦^{いくさ}で自分が負荷となってしまっ

て『人の世話にならず、お荷物にならない』ことを心がけていました。

ですから、その逆で、未練につながる家財をたくさん持ち、ものごとを複雑に考え判断を遅らせ、過剰な装飾性や、勿体をつける同僚を『みっともない』とはねつけたのです。

私たちが今、制服を提案する上で、あるいは物づくりする上で、基軸に据えなければならないのは、このような『もったいないことをしない』『みっともないことをしない』エコごころではないかと思います。

今時、侍の心を持って言えば時代錯誤と言われかねませんが、自分の使命をわきまえ、その完遂に向かって物事を最適化する、その指針のひとつが『シンプル』であり『ストイック』なのだと思います。

また、行おうとする事柄を評価する尺度が、エコ的に見て『もったいない』『みっともない』であっても全然おかしくないと思うのです。

そういえば、江戸時代、日本の大きな都市は、当時の先進地域ヨーロッパの大都市に比べ、石造りの荘厳さや物資の豊かさこそなかったものの、清浄さとリサイクルでは世界一だったと聞いています。

大通りに馬車があふれ、馬糞まみれになった道路を着飾って歩くためにハイヒールが発明された西洋文明と、着物が着まわされ、最期は重ねて刺し子や、ものをきれいに拭くための雑巾になるまでリサイクルされた日本の文化の違い。

時代が変わり、仕組みも変わった現在ですが、日本人のアイデンティティでもある、エコごころは忘れないようにしたいものです。



信頼される企業体制

コーポレートガバナンス^{※1}

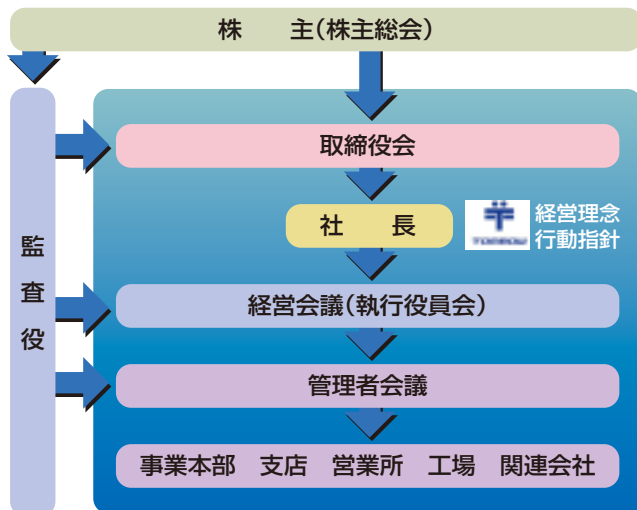
当社は、ステークホルダー^{※2}との良好な関係のもと、客観性・透明性の高いガバナンス体制の構築と、持続的な企業価値の向上を目指し、「取締役会」及び「経営会議(執行役員会)」による迅速な意思決定を行い、各事業部門にて業務を執行しています。

【取締役会】

株主総会にて選任された「取締役」による経営の最高意思決定機関。法令及び定款に定める事項、その他年度予算や決算の承認、中期経営戦略計画の策定など、重要事項を決定。監査役同席のもと、毎月開催。

【経営会議】

取締役・執行役員により、会社の経営に関する基本方針の協議や、会社の業務執行、戦略に関する重要事項を決定。毎月開催。

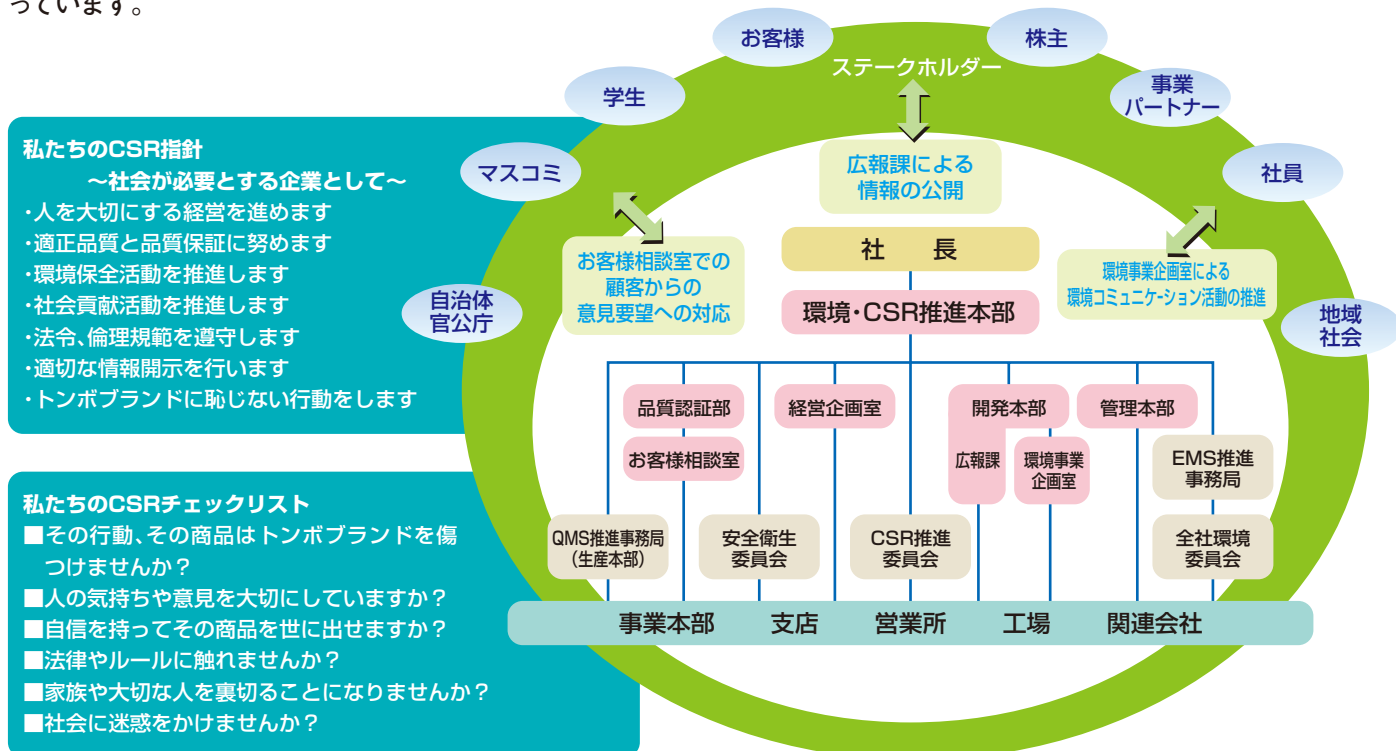


CSR推進体制

社会が必要とする企業として、「私たちのCSR^{※3}指針」を掲げ、社員一人ひとりが、「私たちのCSRチェックリスト」で、その行動をしっかりと確認しながら企業活動に取り組んでいます。そして、企業として持続可能な成長および、社会と調和した活動を目指します。

推進組織は、社長直轄の「環境・CSR推進本部」において、委員会を定期開催し、CSR活動を推進しています。社内外とのコミュニケーション活動は「広報課」「お客様相談室」「環境事業企画室」を設置し、積極的な活動を展開します。

また、「安全衛生委員会」により、安全衛生面の改善活動を実施しています。そして、「EMS推進事務局、QMS推進事務局」により、「ISO14001^{※4}」「ISO9001^{※5}」に沿った環境マネジメントシステム、品質マネジメントシステムの構築と充実を図っています。



- 私たちのCSR指針**
～社会が必要とする企業として～
- ・人を大切にする経営を進めます
 - ・適正品質と品質保証に努めます
 - ・環境保全活動を推進します
 - ・社会貢献活動を推進します
 - ・法令、倫理規範を遵守します
 - ・適切な情報開示を行います
 - ・トンポブランドに恥じない行動をします

- 私たちのCSRチェックリスト**
- その行動、その商品はトンポブランドを傷つけませんか？
 - 人の気持ちや意見を大切にしていますか？
 - 自信を持ってその商品を世に出せますか？
 - 法律やルールに触れませんか？
 - 家族や大切な人を裏切ることになりませんか？
 - 社会に迷惑をかけませんか？

※1 コーポレートガバナンス：企業統治、内部統制。企業が社会や個人のために、健全で持続的な企業活動を行うための仕組み。
 ※2 ステークホルダー：企業活動に関する利害関係者。
 ※3 CSR (Corporate Social Responsibility)：企業の社会的責任。社会における企業のあり方、地域社会の中での役割・責任。
 ※4 ISO14001：ISO (国際標準化機構) が定めた企業活動、製品およびサービスによって生じる環境への負荷低減等、環境経営に関する国際規格。
 ※5 ISO9001：ISO (国際標準化機構) が定めた「提供する品質やサービスの顧客満足度の向上」を目的とした品質管理の国際規格。

「タイリクアカネ」
海に近い池やプールに棲む
羽の支脈が赤い



CSR活動の更なる推進に向けて！

当社のCSR(企業の社会的責任)活動も5年が経ちました。昨年からブランディング活動も始め、より幅広い活動になり着実な進展を遂げています。

長年続けています「We Love トンボ」絵画コンクールや学校ビオトープづくり支援、また各種環境保全団体への支援活動も定着して参りました。学校での環境授業やマイバッグ作りの指導、そしてCO₂の排出削減につながる製品開発や着用後の回収システムについての研究も進めています。本年2月からは地元岡山県の真庭市と「カーボンオフセット契約」を結び、今後活動の場を広げていく予定です。

また、「スポーツ教室」「制服着こなしセミナー」による学校生徒さんたちとの縁づくり、全国各地での展示会、イベントをご覧いただいたお客様とのお縁、さらには「ユニフォームミュージアム」「八正館」等にも多くのお客様にお越しいただきました。これらステークホルダーの皆様との関係がより確かなものとなってきています。

人材育成のための「トンボスクール」も5年を経過、一

層の充実と社員全員の積極的な取り組みが期待されます。また、労務面では管理職を含めた長時間労働の是正努力やメンタルヘルス対策、子育て・介護支援対策等も進めています。定年制の見直しや高齢者雇用も進んでおり、「いきいきと働ける職場づくり」に向けて今後も努力していきます。グループ関連会社への働きかけも進め、全国各地の関連会社における活動も徐々に進んでいます。

トンボグループはこれからもCSR推進企業としての持続的な活動を展開し、社会に役立つ企業となれるよう努力して参ります。

2011年7月



常務取締役
環境・CSR推進本部
推進委員長
田達 啓二

コミュニケーション手法

当社は、ステークホルダーとの良好な関係を築くため、様々なコミュニケーション手法を用いています。

主なコミュニケーション手法

お客様

お客様相談室
ユニフォーム総合展示会
エコプロダクツ展 国際福祉機器展 等
商品カタログ
学校向け制服情報誌「スクーラーレポート」
小売店向け情報誌「エスキューブ」
制服着こなしコミック「ガクスタ」



学生

会社説明会
インターンシップ受け入れ
リクルート冊子

株主

株主総会
決算報告書
社員持株会

自治体 官公庁

プレスリリース
取材対応
各種経営指標報告

マスコミ

社員 OB

社内情報共有システム(トンボネット)
社内報
マンスリーエコレポート
ブランディング情報紙「トンボのこころ」
キラク親睦会(会社概況説明会・親睦会)



地域 社会

工場見学会(学校社会科見学)
チャレンジワーク(中高生)
各種協賛(校内広報板提供)
社会貢献活動
(清掃活動・ビクトリースポーツ教室)



事業 パートナー

販売代理店・販売店研修
品質改善会議
販売会社・協力工場・仕入先オンラインシステム

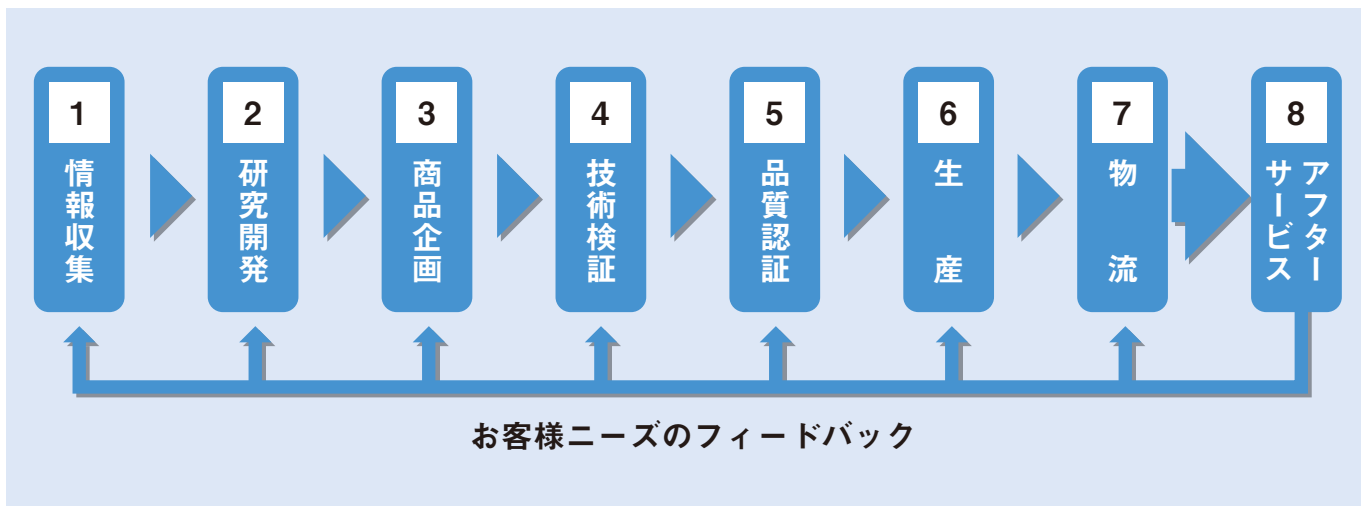
全体

ホームページ
トンボエコフォーラム
CSRレポート
トンボ歴史資料館案内
工場案内 会社経歴書



お客様に安心と満足をお届けするために

お客様のニーズに対応し、満足いただける商品を目指し、当社は研究開発を重視しています。
また安心・安全・快適に着用していただくため、企画からアフターサービスに至るまでのプロセス管理を行っています。



1 情報収集

お客様ニーズの把握

年々変化するニーズを調査するため、3,000人を超える生徒、先生方にアンケートの協力をいただいています。

また保護者対象にお手入れや機能性についてもヒアリングし、より満足いただける商品設計に反映させています。



制服人気調査結果

2 研究開発

制服の心理を深く探求

ユニフォーム研究室では衣服としての制服だけではなく、制服の存在意義や制服着用で変わる人の心理にまで踏み込んで研究しています。

また制服モデルチェンジにあたって制服検討委員会の先生方に対してのアドバイスやデザイン選びの方法など『その学校にふさわしい制服』を制服情報誌「スクーラーレポート」として発行し学校関係者にお届けしています。



3 商品企画

デザイン・柄・色の豊富なバリエーション

時代とお客様の感性変化に合わせ、生地からスタイリングまで新しく企画しています。さらに学校に求められる理念との整合性や、他校との識別性、衣服としての快適性や機能性、オリジナリティなどを作り出しています。



「リスアカネ」
木々に囲まれた池や沼に棲む
オスは胸が赤くならない



3 商品企画

機能の追求

学校制服では外観デザイン以外に、イージーケア性、快適性、耐久性など様々なニーズに対応できる技術を深く追求しています。

■成長設計

生徒の成長に合わせて袖の長さなどを可変できる機能です。買い替えが少なく済み、経済的負担も軽減できます。

■抗菌防臭機能

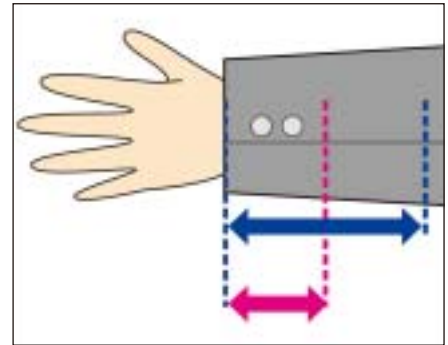
菌の繁殖を抑え、清潔で臭いの発生を防ぎます。

■快適仕様

保温性や体の動かしやすさ、使い勝手のよいポケットなど

■着崩し抑制機能

制服を着崩しさせにくくする仕様で、美しい制服姿と先生の服装指導の負担を軽減させる効果があります。



袖口グローイング仕様

サイズ対応

制服を着る全員の生徒の体格に対応するために様々なサイズが準備されています。また成長が最も著しい時期だからこそ袖口を伸ばせたり、サイズを調節する機能がある商品も製作しています。

異なる体型やサイズの人が全員着るのが制服の原則。そのためにサイズバリエーションの豊富さをはじめ、さまざまな対応をしています。



折り曲げ抑制カーブベルト仕様

4 技術検証

着心地の向上

ゆるやかに変化する生徒世代の最新の体型を、大量のデータを基に把握し、「リアルボディ」に反映させ、快適できれいなシルエットの制服作りに活かしています。



5 品質認証

トンボ品質基準

ISO9001に準拠した商品作りとプロセス管理をしています。また「トンボ品質基準」を定め、当社が取り扱うすべての商品に適用しております。ここでは「材料面の安全性」「縫製時の加工基準」「服種別の検査基準と物性基準」を基本に、品質の維持、向上に努めています。



トンボ品質基準書

品質認証と試験室

私たちが作った商品がお客様に安心と満足を得られる品質であることを「トンボ品質基準」に基づき適合評価し認証しています。試験室には①基準の維持・管理 ②物性の研究・把握 ③物性試験・事故解析を行うための試験機器を整備し、品質の改善・向上に役立っています。また、何千種類もある生地の基本色も独自に保管・管理し再現性の向上に役立っています。



試験室風景

6 生産

検反機による事前検査

生産に入る前に生地のキズや汚れを未然に察知するため、裁断前に「検反機」で検査をしています。また、検査結果は生地



検反作業風景

メーカーにフィードバックされ、生地の品質向上に活かされています。

針管理

PL法施行を受け、「製品安全対策規定要綱」を発行し、ISO9001の運用と併せて、商品の安全性と品質安定のため全員参加で活動しています。「使用針登録台帳」「折れ針復元管理台帳」等を活用し、登録・記録・管理を徹底し、商品に混入しないようにしています。



折れ針復元管理台帳

縫製工程

「次工程はお客様」の精神で、またひと針ひと針まごころを込めて、お客様に満足いただける商品をお届けするため、オペレーター全員が品質向上・不良撲滅の意識を強く持ち縫製しています。細心の注意を払い良い服作りに邁進しています。



工場内風景

製品検査

「トンボ品質基準」「服種別検査基準」「検査手順」に基づいて「仕様書」「作業指図書」を品質記録として全数検査と検針を行っています。仕上げ完了後の商品を立体ボディに着せつけて外観検査も行い、きれいに仕上がっていることを確認してから商品を送り出しています。



製品検査

「コノシメトンボ」
羽の先端に模様がある
明るい池や田んぼに棲む



7 物 流

入・出庫管理

入・出庫作業ではバーコードを活用し検品を行っています。バーコード管理により、2010年度出荷個数約36万個に対して、出荷精度は99.99%でした。

これに甘んじることなく、ミス撲滅会議等を通じ、一層の精度アップに努力します。

また物流センターと生産工場が隣設していますので、縫製から入庫、保管から出庫まで効率よく商品を流すことができます。



バーコード読み取り



物流出荷レーン

8 アフターサービス

全国のグループ販売会社・代理店と一体となり、販売後もアフターサービスの体制を整えています。



スクール商品部



スポーツ商品部



お客様相談室

お客様相談室

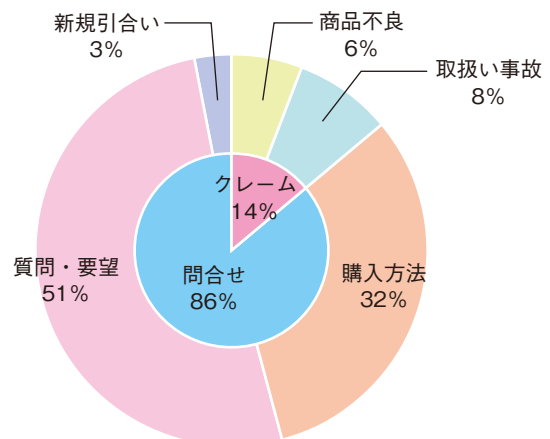
1,080件

これは、この一年間でお客さま相談室にご連絡いただいた件数です。専任体制を整え、お客さまからの声に迅速かつ丁寧に対応することを心掛け、関連部署とも連携しながらお答えさせていただきます。

商品クレームは部署の垣根を越えて原因の究明と抜本的な改善に取り組んでいます。

また、お客さまからの声は、貴重な情報として全社で共有し、製品やサービスの向上に反映させています。

■お客様相談室への相談内容の内訳 (2010年7月～2011年6月末)



 **0120-314253** (フリーダイヤル)

ハイライト

キーワードは地球にやさしい、人にやさしい。

成熟し、一見変わらないように見えるユニフォームの世界も、視点を変えると新しい切り口が見えてきます。当社の、地球にやさしい、人にやさしい商品やサービスの提供をめざす新しい活動を紹介します。

環境にやさしい学生服「TOMBOW HI-BLID」発売

トンボは学生服で初めてカーボンオフセットの仕組みを取り入れた「トンボハイブリッド」を発売しました。地球環境を守るという発想から生まれたエコ商品で上下セットで約1.75kgのCO₂削減に貢献します。

カーボンオフセットとは商品を製造・販売する時に発生する温室効果ガスの排出量をできるだけ減らすよう努力し、別の削減活動で埋め合わせすることを言います。トンボハイブリッドにはグリーン電力の認証ラベルがついており、生産に必要な電力が全てグリーンエネルギーで賄われていることを意味します。

グリーンエネルギーとは風力、太陽光、水力、地熱、バイオマスなど自然の力を利用したものです。



「地球にやさしく、人にもやさしい」オーガニックコットン素材の体操服

『今、自分が抱えている赤ちゃんや子供達のために、さらに将来の世代のために、地球環境にはこれ以上の負荷をかけたくない。』このような思いからスポーツ事業本部では、「地球にやさしく、人にもやさしい」オーガニックコットン素材の体操服を発売しました。

■オーガニックコットンとは？

3年以上農薬や化学肥料を使用しない土壌で、農薬や化学肥料を使わないで生産された綿花の総称です。自然環境に悪いものを一切使用していない状態を継続的に続けている農場で栽培されなければ「オーガニックコットン」と名乗ることができません。

たとえ僅かな混率であったとしてもオーガニックコットンブレンド素材を選ぶことは、将来の地球環境負荷低減へと繋がります。

- ・土壌の質と生物の多様性を向上させること。
- ・私たち全員が依存する空気と水を守るオーガニック農家を支援すること。

次世代への負担を低減させるためにもオーガニックコットンを選ぶ意義は大きいと考えています。



「ミヤマアカネ」
羽の先端手前に濃い茶色の
模様がある



11月29日は「いい服の日」

社員一人ひとりが「良い服とは何か」を考える契機として11月29日を「いい服の日」と定め、日本記念日協会に申請し認定登録されました。

玉野本社工場で決起大会を開き、モノづくりへの心構えを新たにしました。

またグループ全社員を対象に、「いい服」のデザインと標語を募り、標語最優秀作5点と、デザイン入賞作2点を発表しました。



標語最優秀 5 作品

「着る服の 笑顔を思う 服作り」

(玉野本社工場5班一同)

「いい服は、技術、品質、真心で」

(玉野本社工場 有富知未)

「心込め 制服づくり 縁づくり」

(玉野物流センター商品管理一同)

「子を想う 母の気持ちで 服作り」

(美咲工場 住友優子)

いい服 ころろ
「1129に 精神をこめる トンボの縁」

(東京支店 萩原亮二)

キラクふれあいフォトコンテスト

2010年12月から3ヶ月間、第1回キラクふれあいフォトコンテストを開催し、介護を通じて幸せを感じた瞬間や、感動した思い出など、思わず笑顔になった時の写真を募集しました。福祉施設へのダイレクトメール、KIRAKUのホームページなどで告知をし、全国から約100通の、心あたたまる作品が寄せられました。

キラク大賞



「笑顔の先に…」

lzyu様(東京都)

スタッフさんと利用者さんの笑顔が素敵で思わずシャッターを切りました。

優秀賞

「はじめての金メダル☆彡」

ジャッキー様(岡山県)

秋の大運動会!! みんなで頑張って勝ち取った金メダル☆彡 あまりに嬉しくて みんなに自慢しちゃいました!! 白組ばんざーい!!!



「ガオー」

ゆうあいの里大同様(愛知県)

男性ご利用者様の中には硬派?照れ屋?の方もみえます。職員が話しかけるとこんな表情をされたりします。そんな表情の違いも職員はしっかり見分けて、日々ご利用者様の状態観察に努めています!



「笑顔のパワースポット?」

木蓮様(東京都)

脳梗塞で半身マヒになった母を不器用な手で甲斐甲斐しく面倒を見る父。いつも笑顔に溢れるその光景は、そこだけふんわり光り輝いてるようで、思わずシャッターを切ってしまった。



環境方針と環境負荷低減活動

営業活動で発生する紙、ゴミ、電気削減を主体とする従来の環境経営から一步踏み込み、岡山を本拠地とする当社ならではの取り組みがスタートしました。全国に先駆けて、バイオマスタウンを打ち出した岡山県真庭市との推進パートナー協定がそれです。また、グリーン電力利用の詰襟学生服製造にも着手しています。

環境方針

基本理念

株式会社トンボは、創業時よりのブランド「**トンボ**」を旗印として、最良のユニフォームメーカーをめざし、地球環境の保全が最重要課題の一つであることを全社員で自覚し、次世代に向けてトンボが雄飛する美しい地球環境のもと、豊かで住みよい循環型社会を実現する企業活動を展開し、社会に貢献します。

基本方針

1 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善の推進

私たちは、国際規格に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、実施し、維持し、定めたテーマに沿って、環境パフォーマンスの継続的な改善活動を推進します。

2 環境保全活動の推進

私たちは、環境に与える影響を認識し、評価し、汚染の予防を含めて、環境影響を考慮した企業活動を展開します。

3 環境上の法的要求事項及びその他の要求事項の順守

私たちは、当社の環境側面に関して適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

4 企業活動の展開

私たちは、ユニフォームウェア等の企画、設計、製造、販売において、環境影響を考慮し、また地球温暖化防止に向け、日常業務と一体化した活動を展開します。

- ①環境に配慮した素材の導入と製品開発・販売の推進。
- ②使用原材料に含まれる有害物質の安全基準の順守。
- ③資源の有効活用及び省エネルギーの推進によるCO₂排出量の削減。
- ④3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進。

5 自然保護活動の推進

私たちは、以下の自然保護活動を推進します。

- ①トンボ環境委員会活動の推進。
- ②トンボ絵画コンクールへの協賛支援。
- ③トンボと自然を考える会への協賛支援。
- ④学校のビオトープづくり、環境学習への側面支援。

6 環境方針の周知徹底と公開

環境方針は、社員並びに当社の企業活動への協業者に環境教育を通して周知し、全員が理解、実践できるよう啓発活動を推進します。また、この方針は広く一般の人々に公開して、社会と共生する環境活動を推進します。

7 環境方針の見直し

定めた環境目的・目標が状況の変化に適応できるように、また環境方針が当社にとって適切かつ有効であり続けるように、私が見直しを行います。

2008年7月1日宣言

代表取締役社長 **落司 量則**

二酸化炭素(CO₂)排出量の推移

全事業所で電気、水道、ガソリン、プロパンガス、都市ガス、灯油、A重油、軽油といった「エネルギーフロー」についてCO₂排出量を削減する取り組みをしています。売上1億円あたりのCO₂排出量を見ると、2005年から2008年までは12.3%減っていますが、2009年は前年比10%の増加となりました。CO₂排出量は、1725.293トンで前年比+48.934トン 2.92%の増加でしたが、売上が3.12億円 1.61%減少したためです。

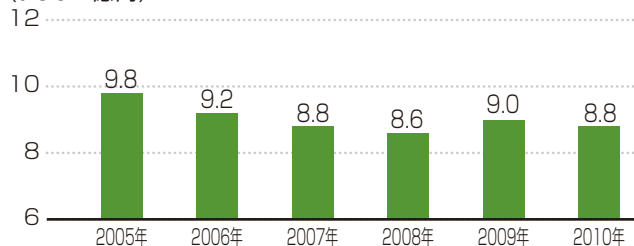
2010年はCO₂排出量が前年比7.244トン 0.42%減少、売上が4.41億円増加したために売上1億円あたりの排出量は8.8トンへと減少しました。

当社のCO₂量は電気、A重油、ガソリンの3項目が全体で94%

を占め、特に電気だけで全体の72%を占めるという大きな特徴があります。今後は、自助努力とカーボンオフセットなどの方法も合わせて削減に努めます。

■ 売上1億円当たりのCO₂排出量

(t-CO₂/億円)





「オオキトンボ」
絶滅の恐れがあるトンボ
成熟しても赤くならず全体
がオレンジ色

商品における環境負荷低減

ペットボトルリサイクル素材商品の普及

再生PET素材を使用した商品は、363,374点でした。

バージンポリエステル商品と比べて42,192kgCO₂を削減したことになります。

製品全体に占める再生PET素材の商品販売比率は5.6%（前年度4.8%）になりました。

ビジネスユニフォームは事業終息のためにエコ商品は減っています。

カーボンオフセットによる環境負荷低減

私たちは製造工程で発生するCO₂削減でカーボンオフセットに取り組んでいます。

企業が活動すると温暖化効果ガスのCO₂が発生します。この排出するCO₂に責任を持って対策を取るという考えに基づいた自発的な地球にやさしい取り組みがカーボンオフセットです。

グリーン電力を使用した詰襟学生服とスポーツウエア生産の主力工場
でカーボンオフセットをはじめました。グリーン電力を使用した詰襟学
生服は全部で10トン相当のCO₂削減をオフセット（相殺）しました。

国内クレジットを活用したスポーツ主力工場のカーボンオフセット

スポーツウエア生産主力工場の美咲工場で製造時に発生するCO₂を
すべてオフセット（相殺）します。

2011年2月に岡山県真庭市と「未来につなぐ真庭の森づくり協定」を
締結。バイオマスタウン真庭の推進パートナーとなりました。バイオマス
を使用した市庁舎の冷暖房より発生する国内クレジットを年間150ト
ン購入し、美咲工場のカーボンオフセットを実施します。2011年4月よ
り美咲工場はカーボンフリーの工場となります。

この取り組みでは「真庭の森づくり協定」も交わり、社員も一緒になっ
て森づくりに参加します。



年間150トンのCO₂排出



木質チップ・ペレットボイラ

製品着用後の環境負荷低減

制服着用後に回収をして素材の混紡率に応じて**3**つのリサイクルシステムでリサイクルに取り組んでいます。

1 ウールリサイクルシステム

ウールを含む素材のリサイクルです。学校や職場で着用された制服を回収し、マットやモップとして再商品化し、還元する「回収型リサイクル」に取り組んでいます。

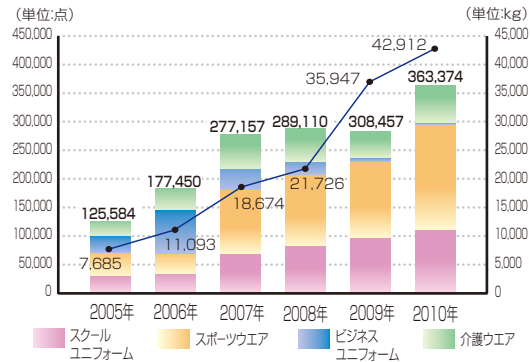
2 エコログリサイクリングネットワーク

高混率のポリエステルを含む素材のリサイクルシステムです。ポリエステルを使用した商品を回収、分解してポリエステル部分をボタンやファスナーに綿はアルコールにして再利用します。このシステムは広域認定の許可を受けました。エコログリサイクリングネットワークのマークのついた商品は回収後、指定運輸業者により運ばれ、工場が加工されます。ポリエステルは繰り返しリサイクルが可能です。

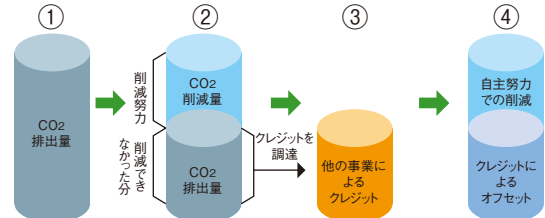
3 ポリエステルケミカルリサイクルシステム

ポリエステルや一部綿を含む素材のリサイクルシステムです。ポリエステル繊維など殆どのポリエステル製品から添加剤、着色剤を分離し、高純度ポリエステル原料(DMT)を作ります。石油から作るものと同じレベルのポリエステルが製造される完全循環型のリサイクルシステムです。これにより生産時の使用エネルギーは約70%、CO₂排出は約80%と省エネルギーで環境負荷低減にも貢献します。

繊維製品(衣料品)のLCA調査報告書にもとづくCO₂換算(2003年5月版)



カーボンオフセットの流れ



- ①発生したCO₂の量をきちんと計算して(知って)
- ②自分で努力してCO₂削減をして(減らして)
- ③どうしても減らせなかった量のCO₂について
- ④その一部もしくは全部を他社の削減事業のクレジットを購入し埋め合わせをします(オフセット)

社会とのかかわり トンボの縁で広がる輪

私達は自然のめぐみのお陰で暮らしています。自然や環境の大切さを「トンボ」を通して学生をはじめとした多くの人々に伝えていきたいと考え、出前授業やビオトープの支援により環境意識の啓蒙活動を行うと共に、環境保全活動に取り組む人々を支援し、ネットワークの輪を広げています。

出前環境授業

小学校から高校までを対象に環境教育と自然環境学習の出前授業を行っています。今年度は制服の残布でマイバッグやマイ箸袋を作る授業、制服のリサイクル、里山体験授業など、15回実施しました。地球にやさしい服の選び方の授業も新しく始めました。



トンボ王国支援

1986年より高知県四万十市にあるトンボ自然公園づくりをサポート、母体の「トンボと自然を考える会」を会社、社員が支援しています。世界初のトンボをテーマとした体験学習施設四万十学遊館は四万十川水系の魚を展示した「さかな館」も併設しています。



茨城県「アサザプロジェクト」支援

小学生から、お年寄りまで18万人以上が参加してきた霞ヶ浦・北浦の自然再生事業。流域170校を超える学校ビオトープでアサザ^{※3}が育てられ、植えつけられてきました。流域の学校ビオトープで毎年開催されるトンボのスケッチ会や同事業を支援しています。



※1 ビオトープ：生物群集が存在できる環境条件を備える地域。生物群の生息場所という意味のドイツ語。
※2 アファン：ケルト語で「風が通る所」という意味。C.W.ニコル氏の故郷ウェールズにある谷の名前から名付けた。
※3 アサザ：池や沼に生える多年生の水草。

学校ビオトープ支援

自然と触れあい、いのちの繋がりを体験できるビオトープ^{※1}は自然再生にもつながる良い教材です。兵庫県たつの市小宅小学校で3年目の活動支援を実施。ギンヤンマ、アジアイトトンボ、ハグロトンボなどが池にやって来るようになりました。



C.W.ニコル氏と「アファンの森」を支援

長野県黒姫の飯縄山麓にあるアファン^{※2}の森は25年もの再生活動で明るい森となりました。林の中には多くの草も生え、そこに沢山のいきものが棲みついています。当社の自然環境活動の指導役(エコパイロット)をC.W.ニコル氏にお願いすると共に森づくりの活動を支援しています。



森、川・海の聞き書き甲子園支援

高校生100人が日本の森、川・海の仕事に携わってきた名手・名人100人を訪ね、その技や人生を聞き書きして記録を残します。伝統的な日本の仕事の価値を高校生を通して広く次世代以降に伝えることを目的としています。

トンボグループは学校への告知活動を中心に支援しています。



トンボ絵画コンクール

日本を代表する昆虫「トンボ」を観察し、描くことでいきものつながりや大切さを感じてほしい。その思いが四半世紀を超え、26年目を迎えました。

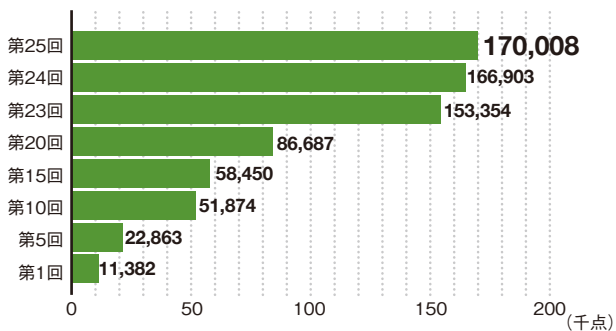
「ネキトンボ」
羽の付け根が赤い
美しいトンボ



1986年創業110周年記念事業で始まったトンボの楽園、高知、四万十市の(旧中村市)「トンボ王国」づくりの支援をしています。トンボの棲む環境の大切さを広く伝えるために「WE LOVE トンボ」絵画コンクールの協賛を開始しました。25年目の2010年は応募数170,008点、応募校数5,922校と初めて17万点を超えました。中でも小学校からの応募が一番多く、全国の1/4の小学校から応募がありました。

絵を描く楽しさや喜びを持ってもらう、自然や人の営みを観察する目を養う、トンボの棲む環境の美しさに思いを馳せる人になってほしいとの願いが支持され、理解されているお陰だと考えます。

■ 応募数推移



最終審査風景

一次審査風景



表彰式



記念撮影



祝賀会にて受賞者交流



トンボ絵画コンクール

検索

入賞作品 <http://tombow.gr.jp>



環境大臣賞 小学3年の部



文部科学大臣賞 小学2年の部



文部科学大臣賞
小学4年の部



文部科学大臣賞
小学5年の部

■主催:朝日新聞社 朝日学生新聞社

■後援:文部科学省 環境省 全国都道府県教育委員会連合 全国市町村教育委員会連合会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会 全国中学校文化連盟 全国高等学校文化連盟 全国高等学校美術工芸教育研究会 日本PTA全国協議会 世界自然保護基金ジャパン(WWF Japan) 日本トンボ学会 トンボと自然を考える会

■協力:サクラクレパス

トンボスケッチ会を実施しました

自然やいきものと接する機会が少なくなった現代の児童、生徒に観察することの大切さを伝えていくことがこれからの課題と考え、2010年9月4日に埼玉県寄居町で開催された第21回トンボ市民サミットにて、専門家によるトンボの解説とスケッチ会を実施しました。地元の5小学校、1中学校から17名の参加がありました。



環境活動とコミュニケーション

地球環境の改善に取り組む人の輪を広げたい、次世代に少しでも良い環境を残そうとできることに取り組んでいます。

エコプロダクツ展 出展

日本最大の環境イベント「エコプロダクツ展」に2003年より出展しています。2010年エコプロダクツ展では、当社ブースに東京、神奈川など首都圏から、小、中、高校生を中心に1,400名ほどの来場者がありました。クイズで環境への取り組みと昆虫トンボについて楽しく学んでいただきました。

PETボトルリサイクルのエコ制服や着用後のリサイクル工程の展示のほか元々丈夫で長持ち設計である制服の紹介やCO₂削減に配慮したカーボンオフセット詰襟学生服、オーガニックコットン体操服など新しい視点でのエコ商品も紹介しました。毎年人気のWE LOVE トンボ絵画コンクール優秀作品に来場者は見入っていました。

新しいコーナーとして制服の残り布で作るマイ箸袋のワークショップを開催、3日間で、500名の方が自分の手でマイ箸袋を作って帰られました。最終日には、出前授業で箸袋づくりを指導した埼玉 大袋東小学校の児童たちが「マイ箸袋作りの先生」となって多くの方々の箸袋づくりを指導してくれました。



エコプロダクツ展 会場:東京ビッグサイト 主催:社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

残布提供

1999年から始めた、制服の残布(制服の製造時に発生する残り布)提供は、全国で145校を超える実績となりました。今年度だけで37件の実績、特に小学校からの申し込みが多く、マイバッグづくりの出前授業とあわせて提供させていただきました。学校以外にも環境学習施設や国際的に活動する医療NPO法人AMD Aへも残布提供をし、会員が作った草履の売上が活動に活かされています。



小学生が作った小物いれ 島根県の小学校



環境イベントで高校生が指導する
残布で作るポケットティッシュカバー作り

各事業所の取り組み

身近でできるさまざまな活動を各事業所で実施しています。

「ナニワトンボ」
青い赤トンボとも呼ばれる
アカネ属



東京支店

節電営業中ポスター掲示

玄関口に節電中のお知らせを掲示して、お客様にもご理解を頂きながら皆で節電に取り組んでいます。

電力使用量は前年6月対比約25%削減しました。



東京支店玄関

蛍光灯撤去による節電対策

東京支店全体で48本の蛍光灯の撤去を行ったこと、また3階での業務を2階フロアに集結させたことで、大幅な電力の削減ができました。



蛍光灯の撤去

美咲工場

花一杯運動

毎年工場の敷地内や正門周りのプランターに花を植え、花壇の整備を行っています。



工場周辺清掃

美咲工場では社員や中国からの実習生約20名が工場周辺の清掃活動を年4回行っています。



玉野本社工場

マイ箸運動

玉野本社工場、物流センターでは社員の環境意識をより高めるため、マイ箸運動を行っています。



残布の再利用

製造過程で発生する残布を利用して100枚の手提げ袋(元気袋)を作り、地元老人クラブを通して東日本大震災被災地の高齢者の方々にお渡ししました。



ビクトリースポーツ教室



全国の小学校、中学校、高等学校に「憧れのアスリート」が直接赴き、講師となって講演と実技指導を無料で行う画期的なプログラムです。

スポーツを通して心の教育を

<http://www.tombow.gr.jp> ビクトリースポーツ教室 検索

VICTORYスポーツ教室は、「スポーツを通して心の教育を」をテーマに2001年からスタートし、おかげさまで10年目を迎えました。



〈主催〉朝日新聞社・朝日学生新聞社・日刊スポーツ新聞社
 〈後援〉全国市町村教育委員会連合会・(財)日本中学校体育連盟・(財)全国高等学校体育連盟

■ VICTORYスポーツ教室講師陣 (順不同・敬称略)

- ・ 山下泰裕 (柔道)
- ・ 山口良治 (ラグビー)
- ・ 松木安太郎 (サッカー)
- ・ 城彰二 (サッカー)
- ・ セルジオ越後 (サッカー)
- ・ 宮澤ミシェル (サッカー)
- ・ 永島昭浩 (サッカー)
- ・ 秋田豊 (サッカー)
- ・ 原田裕花 (バスケットボール)
- ・ 衣笠祥雄 (野球)
- ・ 村田兆治 (野球)
- ・ 与田剛 (野球)
- ・ 工藤公康 (野球)
- ・ 阿波野秀幸 (野球)
- ・ 伊東浩司 (陸上)
- ・ 有森裕子 (陸上)
- ・ 大林素子 (バレーボール)
- ・ 中田久美 (バレーボール)
- ・ 益子直美 (バレーボール)
- ・ 宇津木妙子 (ソフトボール)
- ・ 神尾米 (テニス)
- ・ 陣内貴美子 (バドミントン)
- ・ 鈴木大地 (水泳)
- ・ 武田美保 (シンクロナイズドスイミング)

生徒の声

- ・ 一生にあるかないかの貴重な体験でした。
- ・ 前向きに生きていくことが大切だとわかりました。
- ・ プロになるには努力をいっぱいしなくてはいけないことが印象に残りました。
- ・ 肉体的にも精神的にもすごくためになることを教えてもらいました。

先生の声

- ・ 本物と出会うことで子供たちにとってなによりの教科書になったと思います。
- ・ 子供たちのところに財産が残ったと思います。
- ・ 子供たちが生き生きと練習に取り組んでいました。明日からの練習に磨きをかけるきっかけになり、良かったと思います。

第3回キラク川柳 介護にまつわる「キラク川柳」コンテスト

「キラク川柳」コンテストは、介護にまつわる、悲喜交々な川柳をご応募いただくもので、介護職員のみならずご利用者のコミュニケーションツール、また介護にたずさわる方々の楽しみになれば、という想いで始めました。第3回までの応募総数は約9,000通にのぼります。「利用者の皆さまと頭をひねり、楽しく賑やかな時を過ごした」「川柳を通じて介護の大切さ、生きる喜びを発信したい」「介護の喜びに溢れた川柳に心打たれた」など、全国のみなさまから非常に大きな反響をいただいています。

□キラク大賞

「言葉では
伝えきれずに
手を握る」



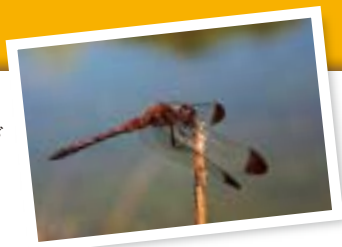
介護老人保健施設
ソレイユカーマ様
(神奈川県横須賀市)
ペンネーム 力持ち様

時折、力持ち様の手を握って、なにかを訴えようとされるご利用者。そんな失語症の方を思いながら作った作品です。

制服着こなしセミナー



「ノシメトンボ」
成虫の腹部の黒い斑紋が
熨斗目模様似ている
ことに由来する



生徒、先生や保護者に、制服の着こなしを正しく理解していただくため、トンボグループは業界に先駆け「制服着こなしセミナー」を行っています。

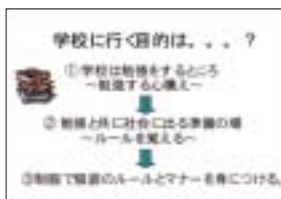
制服は、学ぶ自覚を促すとともに、教室を学ぶ雰囲気に整える役割が期待され、また、良い意味でライバル他校との差別化を図り、自校と自らのプライドを助長する教材だといえます。しかし、制服を私服感覚で着崩したり、そこまできずとも、だらしく着て当たり前のような風潮が蔓延するようだと、その効果も半減し生徒の内面さえ疑われるのではないのでしょうか。そこで、制服を提供する立場から、生徒のみなさんの制服姿を良くしたいとの願いから、「制服着こなしセミナー」を行っています。



トンボが伝えたいこと(セミナー内容)

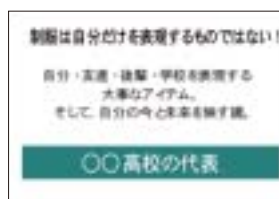
<http://www.tombow.gr.jp>

生徒対象の場合、共感を呼ぶ映像や話題などを交え、わかりやすく面白いものにしてありますが具体的には次のようなことを伝えるように組み立てています。



①制服は教材

制服は教科書と同じように教材の一部であり、マスターするまで反復指導されるのは当然であること。



③見かけが所属するグループのイメージを作る

自分の制服姿が、自分だけでなく友達や先輩後輩、ひいては学校そのもののイメージに良くも悪くも影響すること。



②見かけで内面が分かる

制服姿(着こなしや態度、表情など)が内面の現れであり、外見の印象によって、その人の内面もある程度評価されてしまうこと。



④制服は「ON DUTY WEAR」

- ・カジュアルウエア(私服) = ノンルールがルール。
- ・オンデューティウエア(制服) = 時と場面と場所に合った着こなし。

だから、制服と私服の着こなしを混同して着こなすと着崩しになること。

※制服着こなしセミナーは年々要望が多くなり、2001年開始以来、延べ1,330校を越えた学校で開催しています。

<http://www.kiraku.gr.jp>

□優秀賞

「目を開けて よう来てくれたと また眠る」
ペンネーム 歌の先生様

「「おかえり」と 出迎えられる ショートステイ」
ペンネーム しろみ様

「遠き日の ぬくもり思う 祖母の腕」
ペンネーム 聡一様

□団体賞

山口県立防府商業高等学校様(山口県防府市)

「近い将来介護を支えていくであろう若者達に、介護を考えることで世代間の相互理解と交流の促進につながり、優しさと思いやりの心を育てほしい」と考え、国語の授業で「キラク川柳」を取り上げていただきました。



介護老人保健施設 ソレイユカーマ様(神奈川県横須賀市)

介護部長の山口様が、キラク川柳の募集チラシを見られ、積極的に職員の方に応募を呼びかけていただきました。心あたたまる川柳をたくさんご応募いただきました。



工場見学・インターンシップによる地域貢献

玉野本社工場では、積極的に学生の工場見学やインターンシップを受け入れ、ものづくりの現場を公開しています。歴史資料館、ユニフォームミュージアムと合わせて岡山県地場産業PRに一役買っています。

工場見学

創業の地、岡山県玉野市にある玉野本社工場には製造拠点としての本社機能があり、2008年10月の新工場オープン以来、300団体4,420名の方に見学をしていただきました。

地元玉野市の小学生に社会科授業の一環として、また、中高生や地元産業観光ツアーに工場見学の機会を提供しています。

また、全国の学校に総合学習支援として社員を派遣しています。

さらに、インターンシップ・チャレンジワークも受け入れ、社会のルールをはじめ将来の職業選択の参考になるよう応援をしています。



中学生のチャレンジワーク、高校生・大学生のインターンシップを受け入れています。



高校生の工場見学



小学生の社会科授業・工場見学



玉野市小学3、4年生の社会科副読本「わたしたちの玉野」に紹介されています。

「ユニフォームミュージアム」では奈良・飛鳥時代に始まる日本の学生服の歴史展示や、英国を中心とした海外のユニフォーム、制服のルーツ展示などで幅広くユニフォームの知識を学ぶことができます。



「八正館(トンボ歴史資料館)」ではトンボ135年の歴史を、製品や工具・設備・ポスターなどの展示物、シアターでは映像で学習できます。



財団法人 はっしょうかい 八正会

財団法人八正会は、岡山県内の高校生に対して、奨学金を給付する育英事業団体です。

「キトンボ」
羽がオレンジ色した美しいトンボ
稀にしか見られない



八正会の概要

<http://www.hasshoukai.or.jp>

財団法人 八正会

検索

八正会は、初代社長三宅保正が、「社会に少しでも恩返しをしたい」との思いから、1956年に私財を投じてはじめた育英事業で、1960年に財団法人設立認可を受けました。

岡山県内に在住し、県下の高等学校に進学する生徒に奨学援助を行い、人材育成を支援しています。これまでに、600名以上の生徒を送り出しています。

八正会の活動

八正会では、年4回の研修会を行い、人間性の向上と奨学生同士の親睦を深めています。

■ 入会式 4月

現会員や役員、OBが集まって新会員を迎えます。



■ 秋期研修会 11月

講演会や工場見学、ぶどう狩りなどの野外活動を行います。



ぶどう狩り

■ 機関誌「やまびこ」の発刊

会員の交流の場として、また会員一人ひとりが自己を省みる場として、会員・役員・OBの執筆による機関誌「やまびこ」を年2回発行しています。

■ 夏期研修会 8月

2泊3日の宿泊研修。ディベートやレクリエーションなどを通じて交流が深まります。



野外炊事

■ 歓送会 1月

卒業生を送り出します。



機関誌「やまびこ」

社会貢献活動

各事業所で行っている活動の一部を紹介します。

エコキャップ運動

玉野本社工場では社会貢献活動の一環として、自動販売機の横にペットボトルのキャップ回収箱を設置し、約1万個を玉野市に寄贈しました。

キャップのリサイクルで得られた利益は民間団体を通じて途上国の子どもたちに送るワクチンの購入費に充てられます。この活動を行うことで、社員全員の社会貢献活動に対する理解度や意識も高まっています。



使用済みインクカートリッジ寄贈

社員が家庭で使った、使用済みインクカートリッジを社内で収集し万成病院生活訓練施設「ひまわり寮」に寄贈しました。

施設の利用者が分別作業をし、回収業者へ引き渡した代金が施設の活動費の一部になっています。



旭川清掃活動

トンボでは環境ボランティア活動の一環として、毎年数回旭川河川敷の一斉清掃に参加しています。

例年の担当エリアの後樂園や岡山城の周辺を、ゴミ袋を片手に早朝2時間程度、空き缶や吸殻などを拾いながら歩きます。



社員の声

旭川清掃活動に参加して

私が旭川の清掃ボランティアに参加したきっかけは同期からの誘いでした。最近では、妻と一緒に参加しています。

川の印象は水が比較的澄んでいる方でゴミも見た目には余りありませんでした。しかし草むらや少し川辺に一步踏み入れると奥の方やブロックの間に空き缶・ビニールがぎっしり詰まっていた。見た目以上に川や自然は汚れているのだと思いました。見えない川底はとてもゴミが多いのではないかと想像されます。

玉野本社工場 日向 豊

集合場所に石碑があり、今までに参加してきた企業名が刻まれています。弊社の名もあり地域社会に貢献できていると感じることが出来ました。2時間ほどの掃除ですが多いときはトンボ社員だけでゴミ袋3袋ほど出ました。

次回も妻と一緒に参加させていただきます。



健全な企業風土づくり いきいきと働ける職場づくり

安全な職場環境と働きがいのある職場づくりを目指し、様々な取り組みを行っています。

「アキアカネ」
日本の代表的赤トンボ
夏に高地に移動し秋に
里に降りてくる



健全な労使関係

労働組合「トンボユニオン」と健全な労使関係にあり、社員の労働条件などについて交渉・協議を行っています。

レクリエーション

会社と組合協賛でスキー旅行、日帰り旅行、ボウリング大会等を開催しています。



社員の健康管理

年に1度の健康診断の結果、医師の所見がある社員には大事に至らないためにも、2次検査を受けてもらうように、フォローをしています。

また、平成22年度から、メタボの兆候のある社員には、協会けんぽの保健師による特定保健指導を受けてもらっています。繁忙期に100時間以上の時間外の労働をした社員には、産業医のメンタルチェックと面談を実施しています。

社内報

当社の社内報は、現在1年間に3回のペースで発刊しています。社長の言葉や経営指針はもちろん、職場紹介やコーヒープレイクのコーナー等も設け、社内の情報共有や息抜きにも役立っています。

創刊は1968年で、2006年には第100号を迎えました。今年で43年目となる社内報は、これからも続けていきたいトンボの文化のひとつです。



パートナー社員制度

新入社員が少しでも早く会社に慣れ、力を発揮してもらうことを目的に、若手先輩社員（パートナー社員）が1人ずつつき、相談に乗ったり、アドバイスをする制度を今年から導入しました。パートナー社員には、新入社員に係わることで、自らも人材育成の意識を持ち、成長してもらうことも期待しています。

労働安全衛生対策

本社ビルでは、安全衛生委員会で毎年検討されていた夏場の階段室の高温対策と、事務室のエアコン使用の低減を目的として2011年4月と6月に窓断熱の塗装を行いました。塗装前と塗装後の温度を測ったデータでは、直射日光到達面平均で約8度の温度低減を図ることができ、職場環境の改善をすることができました。今後の節電効果にも期待したいと思います。

セクハラ相談窓口担当者セミナー

平成22年7月16日に専門の先生を招いて、セクハラ相談窓口担当者セミナーを実施しました。実際の相談に対応するため、事例研究やロールプレイングをしました。



託児施設

社員が安心して働ける環境を整えるために、1歳から5歳までの乳幼児を預かる託児所を玉野本社工場事業所内に設けています。



	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
託児所利用者(人)	17	8	16	20	12

こころの健康相談室

社員と家族のこころの健康維持をめざし、社外にこころの健康相談室を設けています。

6月には、各工場で「ストレスに負けない技術」セミナーを開催しました。

2010年7月～2011年6月の延べ相談件数は電話が23件、メールが32件ありました。



健全な企業風土づくり いきいきと働ける職場づくり

トンボスクール


人材育成機関であるトンボスクールでは、社員は人財との基本方針に則り、3つの柱を中心に構成されています。

1. 能力開発研修


長期的な視点で計画的に社内外の研修を組み込み、OJTと絡めて個々の能力アップをサポートします。

トンボスクール


社内研修		外部派遣研修
① 専門職能資格者研修 ・副主事研修 ・評価者研修 初級、中級 ・マネジメント研修 ・目標設定研修	② 階層別研修 ・新入社員研修、新入社員フォロー研修 ・チームワークトレーニング研修(2年目) ・技能職研修 初級(3年目)、中級(5年目) ・一般職研修 初級(3年目)、中級(5年目) ・総合職研修 初級(3年目)、中級(5年目)	① 幹部研修 ・幹部候補生スクール ② 一般研修 ・修養団みかく講習会 ・QCスクール ③ 専門研修 ・マーチャндаイジング ・CAD勉強会 ・パターンメイキング ・繊維素材の基礎知識 ・品質管理、苦情事例研究 ・その他
③ 専門別研修 ・セールス研修 ・ビジネス計数研修 基礎・応用 ・MD力アップ研修 初級・中級	④ 一般研修 ・メンタルヘルス研修 ・セクシュアルハラスメント研修 ・セクハラ相談窓口担当者セミナー ・接遇勉強会	
⑤ グループ会社研修 ・セールス研修		



新入社員研修



セールス研修



チームワークトレーニング研修

2. 通信教育支援

自己啓発と人事制度の職能資格制度との連動(昇格要件)の両面から、通信教育を推奨しています。

昇格要件では、今回から従来の「選択専門コース」に加え、新たに「選択基礎コース」の受講を増やし、より幅ひろい知識や能力を身につけてもらうようにしました。

受講期間内に修了した場合には、受講料の援助金が給付され、毎年多くの社員が受講しています。

今年は、262名が受講し、修了者242名で、修了率92.4%です。

3. 資格取得支援

テクニカルスキルアップを目的に、資格取得を応援しています。会社が奨励する資格取得者には、お祝い金が支給されます。

取得資格名	2010年合格者数	資格保有者数
繊維製品品質管理士(TES)	0	27
技能士(縫製)	5	28
技能士(パターン)	5	18
技能士(機械整備)	0	4
色彩能力検定	0	1
販売士	1	14
日商簿記検定	0	4
秘書技能検定	0	2
ピオトップ計画・施行管理士	0	1
衛生管理者	4	18
危険物取扱者	0	3
電気工事士	0	1

目標によるマネジメント(目標管理制度)

期首に個人の1年間の目標を立て、自律的なマネジメントサイクルにより、目標達成と自己成長を目指します。会社の方針と連動して個人の目標を設定してもらい、また同時に個人の3年後のビジョンも考えてもらいます。

目標の設定、半期面談、期末面談の節目では、常に上司と部下で話し合いが持たれます。

「スナアカネ」
 大部分は大陸からの飛来
 青い複眼が美しい



マイスター制度

トンボの「匠」と呼べる高い技術を有している人に「マイスター」「インストラクター」の称号を与え、より高度な技術の確立と次世代への継承を目的としています。現在の認定者はマイスター1名、インストラクター6名です。

技能継承スクール

ベテラン社員が保有している技術や技能を次の世代に受け継いでゆくために、技術養成塾を開催し、若手の育成に役立てています。

現在は縫製技能、パターン技能、設備・保全技能の3つの塾が開催されています。

IE (生産管理者) 育成会

IEが若手中心になり、基礎の勉強や指導の機会を増やすために、元IE経験者が指導役となり、毎月各工場を会場としながら、テーマを決めて勉強会を開催しています。これには協力工場からも若手が参加されています。



社員の努力を評価、表彰する制度があります

ブランディング活動、コストリダクション活動、小集団活動、改善提案活動など、社内で社員が様々な活動に取り組んでいます。それぞれの活動に対して1年の成果を評価し、努力した社員や、チーム、組織に、全体会議の中で表彰があり、賞金が支給されます。



育児・介護休業制度

1年間(最長1年6ヶ月)の育児休業制度ならびに6ヶ月間の介護休業制度。

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
育児休業取得者(人)	4	1	6	2	9
介護休業取得者(人)	0	0	0	0	0

再雇用制度

60歳定年後も引き続き勤務する意思のある人を対象とした再雇用制度を設けています。

		2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
定年到達者(人)	男	2	8	9	8	7
	女	18	14	18	18	14
再雇用者(人)	男	1	5	5	6	6
	女	10	7	11	15	9

障がい者雇用

障害を持った方がいきいきと働ける職場づくりを目指します。

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
障がい者雇用率(%)	1.69	1.63	1.62	1.57	2.10

社員の声

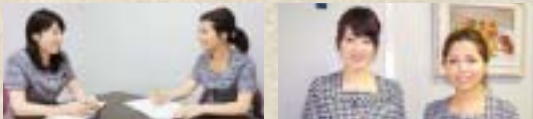
パートナー社員制度

スクール商品部 石田佳織(新入社員)

私は、毎月1、2回先輩と面談をしています。仕事は、皆さん忙しくてなかなか業務以外の話をする時間がありません。しかし、この面談ではゆっくり話ができて、いろいろと質問をして会社や仕事について教えてもらっています。半分は雑談のような感じなので、リラックスして先輩とコミュニケーションがとれる貴重な時間です。

スクール商品部 早川真裕子(先輩社員)

同じ職場でも、直接仕事のかかわりが無いため、話をする機会が少なく、話題も仕事のこと程度です。しかし、パートナー社員制度でゆっくり話をする時間ができ、普段は見ることができない一面を発見できたりして、お互いの距離も縮まった気がしています。始まったばかりの制度で手探りの状況ですが、これからたくさん話をして、より良い関係を築いていきたいです。



ブランディング表彰者の声

玉野本社工場 河田 薫

ブランディング活動を進めていく上で一番悩んだ事は、直接お客様との関わりが少ない生産本部として、何が出来るかという事でした。検討した結果、良い商品を納期通りに納める事がトンボファンの拡大に繋がり、生産本部としてのブランディング活動になるのではと考え、よい職場を作るために5S活動の推進と基本動作の徹底をテーマに進めてきました。全社員に定着するには時間を要しましたが、今では各職場の5S活動への意識も高まり、お客様への挨拶も向上しました。今後もトンボの更なる企業価値向上のために頑張っていきたいと思っています。



ブランディング活動報告

シーズンテーマ:「ご縁を大切に」

今期のシーズンテーマは、前期に引き続きトンボの経営理念のひとつである「ご縁を大切に」とし、全社17部門がこのテーマに沿った自部門課題(活動テーマ)を設定し活動しました。

今期は各部門長、ブランディング委員選抜メンバーそして役員による審査が行われ、お客様をはじめ多くのステークホルダーとの接点を磨くというブランディング活動に対し、積極的に取り組み、貢献度が高く、模範となる活動を行った4部門が表彰されましたのでご紹介します。ブランディングとは、お客様にとって価値のあるブランドを構築するための企業活動です。

【優秀賞】

玉野本社工場:「基本動作の徹底」「5S活動の推進」

玉野本社工場では、「基本動作の徹底」と「5S*活動の推進」をテーマに掲げ活動を進めました。「基本動作の徹底」では、お客様への立ち上がっての挨拶の徹底と、事務所、縫製班への入室時の一礼運動の推進を進めていきました。

「5S活動の推進」では、5S推進委員会での工場巡回による継続的なチェック、床ゴミZERO運動の推進を行いました。また、クレーム対応は第一優先業務とし、工場の見える化として掲示板を活用してクレーム情報の開示を実施、社内情報の共有化とスピーディーな対応を徹底しました。

今後もトンボの企業価値向上に向け、更に活動を活性化させていきたいと考えています。



工場の見える化(掲示板)

【努力賞】

物流サービス部:5Sの徹底から物流品質の確立へ

物流サービス部では、月一回の全館清掃・社員勉強会等を通して5Sを徹底し、物流品質の確立を目指し全員参加で取り組んでいます。

年間通しての取り組みにより、物流品質について部員の意識向上が図れ、お客様により良い商品と安心をお届けすることができるようになりました。



全館清掃



社員勉強会

総務部:お客様に心で接しよう

総務部では、“お手本となる基本動作”を目標に他部署の人に教えられるスキルを身につけるため、毎朝朝礼当番が講師役となって「心の手帳」を使ってポイントを伝えるロールプレイングを行っています。

他部署に対しては、接客勉強会を開催し、基本動作を繰り返し練習してもらいました。また、手紙の宛名書きについて、ブランディング委員会で呼びかけをしたり、各部署の勉強会のサポートをして、知識や意識を高めてもらえるよう活動しました。



基本動作勉強会(美咲工場)



接客勉強会(岡山本社)

大阪支店:地域に愛されるメーカーへ

大阪支店では、平成22年6月3日より町内会主催のボランティア活動である中大江公園の清掃に参加しています。

月に1回開催され、近隣の会社の方々や住民が参加し公園全体のごみや落ち葉などを回収するクリーン運動です。

トンボ社員は3名からのスタートでしたが、社内啓蒙の甲斐もあり翌年6月2日には、社員数最多の16名となりました。

こういった活動に参加する事により、町内会の方々には笑顔で接してもらっています。

限られた時間の中でのボランティア活動ですが、社員一人ひとりの自覚と行動でトンボのブランドイメージを更に高められる様、清掃に限らず参加できればと考えています。



クリーン運動

*5S: 整理、整頓、清掃、清潔、躰

沿革

1876年(明治9年)	●三宅熊五郎により創業
1908年(明治41年)	●初代社長三宅保正が事業を継承
1910年(明治43年)	●「キラクたび」を主要商標として登録
1924年(大正13年)	●法人設立、帝国足袋株式会社と称す
1930年(昭和5年)	●学生服の生産・発売を開始。現在のトンボ学生服の第一歩である
1944年(昭和19年)	●帝国興業株式会社に社名変更
1945年(昭和20年)	●学生服・足袋再生産開始
1947年(昭和22年)	●紡績部門を設ける
1955年(昭和30年)	●学生服・作業服・トレーニングパンツJIS規格表示許可工場となる ●合繊製品生産開始
1965年(昭和40年)	●丸洗い(ハイウエイ)学生服誕生
1971年(昭和46年)	●スポーツウエア専門柵原工場(現 美咲工場)建設
1974年(昭和49年)	●テイコク株式会社に社名変更 ●本社事務所岡山に移転 ●岡山工場 新築移転
1976年(昭和51年)	●創業100周年 ●S.I(スクールアイデンティティ)提唱
1978年(昭和53年)	●オンラインシステム導入
1979年(昭和54年)	●本社事務所 岡山駅前に移転
1982年(昭和57年)	●玉野流通センター完成
1983年(昭和58年)	●業界初のウール50%ウォッシュアップル学生服誕生
1984年(昭和59年)	●本社工場コンピュータ・グレーディング・マーキングシステム導入
1986年(昭和61年)	●創業110周年記念事業として「WE LOVE トンボ」絵画コンクールを始める
1989年(平成元年)	●デザイナー・山本寛斎氏と提携、「KANSAI SCHOOL FORM」販売開始
1990年(平成2年)	●デザイナー・桂由美氏と提携し、ビジネスユニフォーム販売開始
1993年(平成5年)	●本社工場内にカットセンター設立と自動裁断システムの導入
1994年(平成6年)	●デザイナー・中野裕通氏と提携し「ヒロミチナカノスクール」販売開始
1996年(平成8年)	●創業120周年事業としてユニフォーム研究開発センター設立
1997年(平成9年)	●介護、リハビリウエア「KIRAKU」販売開始
1999年(平成11年)	●ISO9002品質マネジメントシステム(QMS)認証取得
2001年(平成13年)	●ISO14001環境マネジメントシステム(EMS)認証取得 ●「コムサデモード・スクールレーベル」販売開始
2002年(平成14年)	●ISO9001品質マネジメントシステム(QMS)認証取得 ●本社事務所 岡山市厚生町に移転
2003年(平成15年)	●「オリブ デ オリーブ・スクール」販売開始
2006年(平成18年)	●ISO14001環境マネジメントシステム(EMS)認証取得(全13事業所) ●創業130周年 株式会社トンボに社名変更
2008年(平成20年)	●新本社工場・物流センター完成
2009年(平成21年)	●「ヨネックス」と提携、学校体操服の販売開始 ●メディカルウエア(白衣)の販売開始
2011年(平成23年)	●創業135周年 真庭市とバイオマス推進協定締結

代表的商標の歩み

◎足袋製造時代の主力商標は、キラク

瀬戸内特産の綿花を使った足袋がヒットした時代の主力商標はキラクでした。創業者の母親の名を『亀』と言い、その亀さんを楽しませたい、だから亀楽の意味でキラクとなったと言われています。その後、キラク商標はしばらく休眠していましたが、1997年(平成9年)、介護衣料を始めるに当たり、キラクを、人生を例える『喜怒哀楽』から怒りと哀しみを取り去った『喜楽』と読み替え、新生キラクが立ち上がり今日に至っています。



キラクの商標(明治43年頃より)

◎トンボ商標

アサヒトンボ商標は、当初、キラクに続く足袋商標の代名詞でした。1930年(昭和5年)、学生服製造を始めるに当たり、市場に早く浸透するため、その知名度を生かしアサヒトンボ商標が用いられましたが、学生服事業が拡大するにしたがって、呼びやすさや親しみやすさからトンボが一本立ちし、『トンボ学生服』となり、今日に至っています。トンボ商標は、創業80年史(1956年刊)によれば、「日本は世界一蜻蛉(とんぼ)の多い国であります。日本の国を秋津洲(アキツシマ)ともいい、この「秋津」とはトンボのことです。即ちトンボは日本を表徴し、しかも子供に親しまれる益虫であります。更に「アサヒ」は将に太陽の天に昇るところ即ち日出づる国として、日本の表徴であります。このアサヒにトンボを組み合わせた図柄は、我国の発展を祈る真心より弊社の商標といたしたものであります。」の記述があります。



トンボひとくちメモ



その昔、日本のことを「秋津洲」と呼んでいました。「あきつ」とはトンボの古い呼び名。つまり、日本はトンボの国だったのです。日本書紀によると、大和の地で即位された神武天皇が小高い丘の上から国見をされた折、「あきつのとなめ(交尾)せるが如くあるか」と仰せられたことがきっかけとされています。

トンボCSRレポートに関するお問い合わせ先

株式会社トンボ 環境・CSR推進本部

〒700-0985 岡山市北区厚生町二丁目2番9号 E-mail kankyo@tombow.gr.jp TEL.(086)232-0368 FAX.(086)225-6680

※当レポートに掲載されている内容・写真の無断転載はお断りします。

CSRレポートとは

企業が、環境や社会問題などに対して倫理的な責任を果たすべきであるとするCSR(企業の社会的責任)の考え方に基づいて行う、社会的な取り組みをまとめた報告書です。持続可能性報告書とも呼ばれ、企業の環境、労働、安全衛生、社会貢献などに関する情報や、事業活動に伴う環境負荷などを幅広く公開します。近年、さまざまなステークホルダーに対する説明責任を果たすコミュニケーション手段の一つとして環境報告書からCSR報告書へ移行する企業が年々増加傾向にあります。



第25回「We Loveトンボ」絵画コンクール
文部科学大臣賞 小学1年の部 檜山 明里

人と自然を大切にしたい価値ある製品づくりを

株式会社 **トンボ**

[トンボCSRレポート](#)

[検索](#)



印刷用紙は、適切に管理された森林で生産されたことを示すFSC™ 森林認証紙を使用。インキは環境負荷の少ない植物油インキを使用しています。